

J-BINGO in AGU: Japan Bridge for International Governmental Organization in AGU

J-BINGO in AGU:
Japan Bridge for International Governmental Organization in AGU

<プロジェクト・メンバー>

飯島 泰裕^{†1} 米山 明日香^{†1} 菊川 人吾^{†1 2} 上野 亮^{†1}

Iijima, Yasuhiro^{†1} Yoneyama, Asuka^{†1} Kikukawa, Jingo^{†1 2} Ueno, Ryo^{†1}

^{†1} 青山学院大学 社会情報学部

School of Social Informatics, Aoyama Gakuin University

^{†2} 経済産業省 製造産業局

Ministry of Economy, Trade and Industry, Manufacturing Industry Bureau

キーワード：国際公務員，国際機関，キャリアプラン

Keywords: International Civil Servant, International Organization, Career Plans

1. プロジェクトの実施背景と目的

将来的に、国際機関を含む、国際的なフィールドで働く日本人職員を増やすことが、日本全体としても喫緊の課題となっている。そのため、青山学院大学社会情報学部においても、学生時代から国際的なフィールドで働く日本人職員との接触機会、国際機関などでのインターンシップの機会等を設けることで、国際機関職員候補を始めとした、国際的なフィールドで、活躍できる人材の育成が必要である。

こうした背景も有り、2015年度より、学生の国際機関等に対する興味や関心を高めるため、関係機関の協力を得ながら、講演会等を実施している（飯島他、2016）。これは、学生達に対し、国際機関を含む、国際的なフィールドも、将来の就職先の一つとして、意識させることを通じ、最終的には、国際的に活

躍する、日本人を増やすことを目的としている。加えて、2016年度からは「プロジェクト演習入門Ⅰ／Ⅱ」、2017年度からは「プロジェクト演習Ⅰ／Ⅱ」、2018年度からは「特定課題演習」と年次進行により、各学年の演習科目で、選択テーマの1つとして扱うことにより、自分のキャリアを考えると共に、より深く、国際的なフィールドで働く、日本人と関われる機会を創出してきた（飯島他、2017～2019）。

こうして、2018年度より各学年の学生が、何らかの形で本プロジェクトに関われる環境を構築してきた。しかし、今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により、例年同様の進め方ができなかった。そこで、カリキュラムのオンライン化等の工夫をしながら、プロジェクトを進めてきた。本稿では、国際的に活躍する、日本人を増やすことを目的に実施してきた、プロジェクトの進捗状況、今後の実施方針を報告する。

2. 授業を通じた国際的なフィールドで活躍できる人材育成の取り組み

2020年度は学部1～3年生を対象に活動してきた。1年生には、国際機関の存在を意識させるため、「Integrated English I / II」の時間を利用し、講演会を実施した。2年生は「プロジェクト演習入門 I / II」の選択テーマとして、国際機関等でのインターンの実現に向け、国際的に働くことを理解するため、調査活動に取り組んでいる。3年生は「プロジェクト演習 I / II」の選択テーマとして、2年生時の活動成果を活かし、国際機関等でのインターンの実現を目指し、活動をしている。

これらの各科目での活動に加え、後期からは月1～2回程度、J-BINGO プロジェクトに関係する学生が、集まるゼミを開催している。ここでは、お互いの調査等の進捗状況を共有すると共に、先輩から後輩に対し、調査活動等に必要なノウハウの伝達を図ってきた。本章では、各学年における、具体的な取り組み内容を記す。

なお、例年、4年生は「特定課題演習」として、これまでの活動の集大成となる、研究成果を取りまとめた。過去には、本プロジェクトに関する“テキスト作成”、国際機関をより身近に感じてもらうと共に、本プロジェクトに対し、興味関心を促すための“パンフレット作成”を行った。また、紙媒体だけでなく、本プロジェクトの活動成果等を集約する、情報プラットフォームとなる“ウェブサイト構築”も行っている（青山学院大学社会情報学部 J-BINGO プロジェクト、2019）。しかし、今年度は、同科目における、J-BINGO テーマ選択者がいなかったため、本プロジェクトでは、「特定課題演習」を開講しなかった。

2-1. Integrated English I / II における取り組み状況

例年は、1年生に向けた取り組みとして、社会情報学部1年生を対象とした英語系必修科目において、英語の得意な学生が集まるクラス及び、その他参加希望者を対象に、年2回の講演会を実施してきた。しかし、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、

オンライン授業となったことで、通常の講演会の実施が難しい状況となった。

そこで、前期は社会情報学部1年生の必修科目「Integrated English I」において、英語の得意な学生が集まるクラスを対象に、授業の一環として、過去の講演会の録画映像を見る機会を設けた。実際に見せたのは2015年5月11日に開催した、NPO 法人国際環境経済研究所主席研究員 菊川人吾氏（開催当時）による「国際機関への架け橋（J-BINGO プロジェクト）～国際機関での日本のプレゼンス：多様なキャリアパスでアプローチしよう～」と外務省国連企画調整課国際機関人事センター課長補佐 佐竹博厚氏（開催当時）による「国際機関で働くには」の録画映像である（図1参照）。

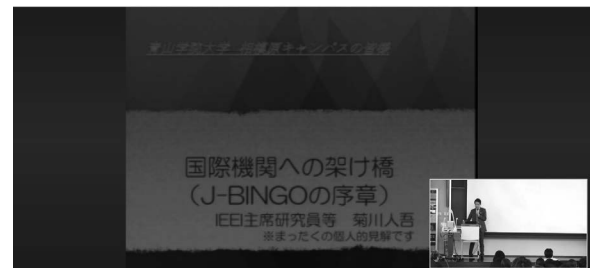


図1 講演会の録画映像

後期は社会情報学部1年生の必修科目「Integrated English II」において、前期同様、英語の得意な学生が集まるクラスを対象として、授業中に J-BINGO プロジェクトに関して、簡単に説明する機会を設けた。更に、従来の講演会に代わるものとして、本学の人権教育委員会の支援を受け、「Integrated English II」の授業時間を利用して、英語の得意な学生が集まるクラス及び、その他参加希望者を対象に、人権教育公開講義を実施した。講義は、2020年11月30日4限、EY 新日本有限責任監査法人の名越正貴氏に、英語と日本語を用い、「国際社会で企業に求められる人権の尊重責任とは？」という題目で、オンライン授業を実施頂いた。

また、授業中に J-BINGO プロジェクトに関しての説明を受けたり、人権教育公開講義に参加した学生を対象に、今後の J-BINGO プロジェクトに関する取り組みに対する、参加意欲等を調べるため、2020年11月30日～12月7日の期間に、オンライン形式でのアンケート調査を実施した。結果、31名からの

回答を得られた。

まず、授業をきっかけに、国際機関でのインターンシップをしたいと思った学生は22名(71.0%)いた。また、国際機関や国際的なフィールドで、働きたいと思った学生は14名(45.2%)となった(図2参照)。今年度は、授業中に、J-BINGO プロジェクトに関して説明する機会を設けたことで、一定数の学生に、在学中に国際機関でインターンをしたいと思わせる状況が作れた。

一方、授業をきっかけに、国際機関や国際的なフィールドで、働きたいと思った学生は半数以下に留まった。これは、新型コロナウイルスの感染拡大により、学生の海外志向が低下しているためと考えられる。加えて、国際機関で働く、日本人職員の講演が実施できなかった点も、要因の一つと考えられる。そのため、本プロジェクトの目的を考えるならば、年間を通じて、一度は国際機関で働く、日本人職員の講演を実施する必要がある。

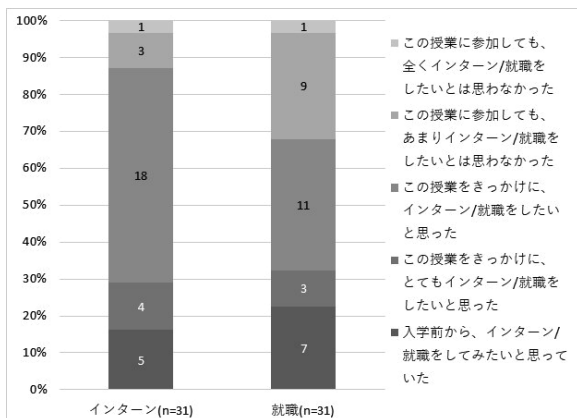


図2 国際機関でのインターン、国際機関や国際的なフィールドへの就職に対する考え

2年生以降のJ-BINGOプロジェクトに関する取り組みへの参加意欲に関しては、2年時での取り組みに関しては、24名(80.0%)、3年時での取り組みに関しても24名(80.0%)の学生が参加したいと考えていた(図3参照)。よって、今回の授業の内容は、今後のJ-BINGOプロジェクトへの参加促進のためのPRとしても、十分な効果を達せられた。

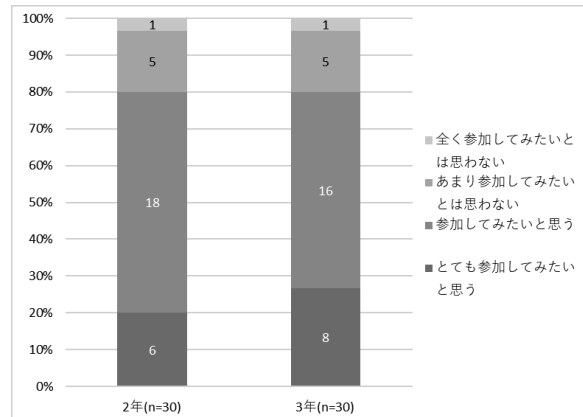


図3 2年時科目(プロジェクト演習入門)、3年時科目における、J-BINGOプロジェクトに関する活動への参加意欲

また、昨年度の調査に引き続き、今年度もJ-BINGOプロジェクトに関連した課外活動への参加意欲に関して、質問した。一つ目は、ゲームを通じ、国際問題等について学べるイベントへの参加意欲である。例えば、国境なき医師団日本では、各地の大学において、脱出ゲームを通じて、南スーダンや同国で実施している援助活動について、考えさせるイベントを実施している(株式会社タカラッシュ、2019)。また、近年では、各地でカードゲームを通じ、SDGsの本質を理解できるイベントが開催されている(一般社団法人イマココラボ、2019)。J-BINGOプロジェクトとしても、こうしたイベントを通じ、実際に国際問題を理解し、国際協力することに対する、意識付けのきっかけを与えることも、今後は重要になる。

二つ目は、国際機関を視察し、現地で実際に働く日本人スタッフと交流する、スタディツアーへの参加意欲である。実際、他大学では、将来国際的なフィールドで活躍することを希望する学生への導入的プログラムとして、国連本部での、現役国連職員によるブリーフィングの受講を含む、スタディツアーが実施されている(東京外国語大学、2019)。国際的なフィールドで活躍できる人材の育成という面では、実際に学生たちに、直接、海外で活躍する日本人の姿を見ながら、自らのキャリアも考える機会を作ることも必要になる。

三つ目は、国連ユースボランティアへの参加意欲である。国連ユースボランティアとは、国連ボランティア計画(UNV)が実施する、提携大学の学生を開発

途上国へボランティアとして派遣し、約5ヶ月間、開発途上国の UNV 事務所等において、国連や政府機関、NGO スタッフ、現地の人々とともに開発支援活動に従事することで、単位を修得できるプログラムである（国連ボランティア計画（UNV）、2015）、（上智大学、2019）。国際的なフィールドで活躍できる人材の育成という面では、実際に海外に赴き、比較的長期間に渡り、国連職員らと共に、活躍できる機会を作ることも必要になる。こうした考えの下、これらの課外活動への参加意欲について、質問した。

その結果、ゲーム系イベントは26名（83.9%）、スタディツアーは27名（87.1%）、ユースボランティアは23名（76.7%）と、7割以上の学生が参加したいと思っていた。結果としては、どの活動に対しても、学生達の参加意欲は高めである。

そのため、ゲーム系イベントに関しては、学内で開催した場合でも、ある程度の動員が見込まれる。よって、今後、新型コロナウイルス感染症の問題が収束し、通常の対面型授業が再開されたら、J-BINGO プロジェクトとしても、学内でのイベント開催を検討しても良いだろう。

図2に示すように、授業をきっかけに、国際機関や国際的なフィールドで、働きたいと思った学生は半数以下に留まった。しかし、海外での活動を体験できる、スタディツアーやユースボランティアのような活動への参加意欲も高い。そこで、こうした活動を入口として、国際機関や国際的なフィールドで働きたいと思わせる学生を増やすという方法も、模索していく必要がある。そのため、新型コロナウイルス感染症の問題が収束し、海外での活動が実施可能となったら、こうした課外活動の実施に関しても、検討していきたい。

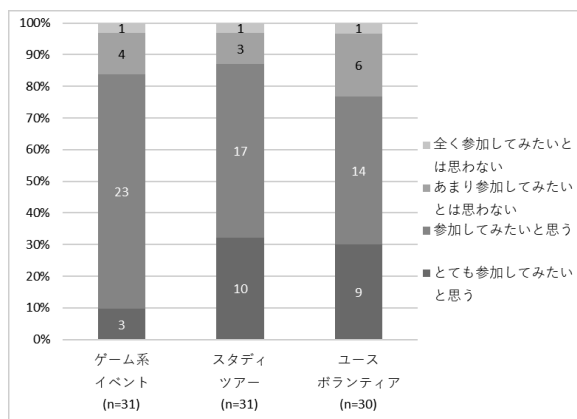


図4 各種課外活動への参加意欲

2-2. プロジェクト演習入門Ⅰ／Ⅱにおける取り組み状況

2年生を対象とした取り組みとして、社会情報学部2年生以上を対象とした、前期科目「プロジェクト演習入門Ⅰ」及び、後期科目「プロジェクト演習入門Ⅱ」において、J-BINGO プロジェクトを選択テーマの1つにした。ここでは国際機関等でのインターンの実現に向けて、国際的に働くことを理解するための調査活動等に取り組んできた。

例年は、1年間同じグループで活動し、前期に国際機関や国際課題等に対する理解を深め、後期に教員のサポートを得つつ、自ら在京国際機関などへアプローチし、様々なヒアリング調査を実施している。その後は、調査の成果を活かし、インターンや共同作業等を実践するためのプロジェクト素案を作成する。

しかし、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、授業の実施形態が変更になったため、同科目における取り組み内容も変更せざるを得ない状況となった。前期科目「プロジェクト演習入門Ⅰ」の履修者は、①毎週型のオンライン授業（以下、①毎週型授業）としての受講、②夏季集中講義型のオンライン授業（以下、②夏季集中講義型授業）としての受講、この二つの中から受講形態を選択し、受講する形となった。授業としては、進級条件に引っ掛かる等の特別な事情が無い限り、②夏季集中講義型授業での受講を推奨した。そのため、多くの履修者は②夏季集中講義型授業を選択した。後期科目「プロジェクト演習入門Ⅱ」は、全履修者、毎週型のオンライン授業としての受講となった。

本プロジェクトとしては、プロジェクト演習入門Ⅰ／Ⅱにおいて、J-BINGO テーマを選択した学生に対し、オンラインでの指導を実施したことが無かった。そこで、プロジェクト演習入門Ⅰの内、①毎週型授業を実施しながら、オンライン授業を実施する上での課題や改善点を整理し、②夏季集中講義型授業や後期は、J-BINGO テーマを選択できるように、カリキュラムの改訂を行った。

通常、前期中は全15週の授業期間の内、J-BINGO に関する取り組みができるのは、授業としての基礎教育期間を除く9週間である。しかし、②夏季集中講義型授業では、全3日の授業期間の内、基

基礎教育期間を除く2日間しか、J-BINGOに関する取り組みができない。そこで、現在のコロナ禍とも関連した内容、かつ、2日間で成果を出せるように、「コロナ禍のような非常事態時における、国際的に活動する組織の対応策に関する提案」というテーマとした。

結果、②夏季集中講義型授業において、J-BINGOを選択したのは5グループ25人となった。彼らは、コロナ禍における、グローバル企業や国際機関の対応策を調査し、対応策が実現に至った発想のポイントを整理したり、日本政府が取るべき支援案等を提案した。

後期は毎週型のオンライン授業であるため、J-BINGOに関する取り組みは、初回のガイダンスを除き、ファイナルプレゼンテーションまでの計12週間実施できる。しかし、例年と異なり、前期は②夏季集中講義型授業であり、ごく短期間で授業が終了したため、学生が国際機関や国際課題等に対する理解を深める機会が少なかったこと、新型コロナウイルスの感染拡大により、国際機関等へ訪問してのヒアリング調査の実施は難しいことが懸念点となった。

そのため、テーマは例年通り「在京国際機関や関連機関における、インターンや共同作業を目指して、様々な準備を行う」としたが、相手先に訪問しないでも実施可能である調査活動中心に進めることにした。加えて、学生には、この調査活動を通じ、国際機関や国際課題等に対する理解を深めてもらった。結果としては、後期にJ-BINGOを選択したのは、3グループ14人となった。

また、後期からはオンライン形式ではあるが、J-BINGOプロジェクトに関係する学生が集まるゼミを開催した。2年生のメンバーは、ゼミ時に調査等の進捗状況を報告することで、随時、3年生のメンバー、教員からのフィードバックを受けながら活動を進めてきた。

今年度は全ての活動がオンライン形式であり、対面でのコミュニケーションが取れないという制限があり、やり難い状況ではあった。しかし、学生達は授業やゼミの時間外にも、独自にオンラインミーティングを開くことで、精力的に、調査活動を進めていた。

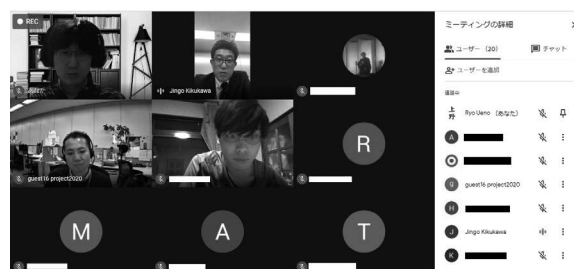
2020年12月には、オンライン形式で、ファイナルプレゼンテーションを実施した(図5、図6参照)。この場で、2年生たちは、学生を対象としたアンケート調査、関係機関に対するメール調査といった、各種

調査活動の成果を踏まえ、インターンや共同作業等を実践するためのプロジェクト素案の提案を行った。



(注：編集により学生の氏名は塗りつぶしを行った)

図5 ファイナルプレゼンテーションの様子1



(注：編集により学生の氏名は塗りつぶしを行った)

図6 ファイナルプレゼンテーションの様子2

また、今年度は新しい取り組みとして、2021年1月に、授業時間を利用して、オンライン形式の講演会を実施する予定である。ここでは、国際機関や民間企業の職員を招き、コロナ禍での国際的な働き方、仕事上での海外との接点等について、講演をして頂く予定である。

2-3. プロジェクト演習Ⅰ／Ⅱにおける 取り組み状況

3年生を対象とした取り組みとして、社会情報学部3年生以上を対象とした前期科目「プロジェクト演習Ⅰ」及び、後期科目「プロジェクト演習Ⅱ」において、J-BINGOプロジェクトを選択テーマの1つにした。例年は、教員のサポートを得つつ、自らが在京国際機関などへアプローチし、インターンや共同作業を実践するのに合わせ、文献調査などを通じて、国際的課題の把握や解決策の提示を研究している。しかし、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、インターンの実施ができなかった。

そこで今年度は、「国際機関へ向けた青学生らしい

情報発信手法の提案」というテーマで、国際機関やグローバル企業等、国際的な活動をしている組織の情報発信のあり方について、調査研究をしている。加えて、来年度の特定課題演習において、インターンシップを実現するため、必要な英語力（英語履歴書の作成等）の習得といった、準備活動を行っている。なお、例年は対面授業の形で指導をしているが、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、全学的にオンライン授業となったため、J-BINGO プロジェクトを選択した学生への指導は、プロジェクト演習Ⅰ／Ⅱの授業時間以外の指導も含め、全てオンラインで実施している。

また、2年生と合同で活動する際は、2年生達に活動報告等を行った。2年生と3年生が、相互に活動の内容を報告することで、お互いの状況を知る良い機会となった。今後は、プロジェクト演習Ⅱの最終報告会の結果を踏まえ、一年間の調査活動に関して、報告書を作成してもらう。

3. 今後の実施方針

2020年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により、本プロジェクトとしても、様々な場面において、当初の予定とは違う形で実施せざるを得ない状況となった。それでも、オンライン授業に対応することで、何とか、今年度もプロジェクトを進めることができた。

Integrated English の取り組みに関しては、前期は過去の講演会の録画映像を見る機会を設けた。その後、後期には、授業中に、直接、J-BINGO プロジェクトに関して説明する機会を設けた。また、今後のJ-BINGO プロジェクトに関する取り組みへの参加意欲等を把握するため、アンケート調査を実施した。

プロジェクト演習入門では、前期にオンライン授業への対応を進めた。その後、夏季集中講義において、「コロナ禍のような非常事態時における、国際的に活動する組織の対応策に関する提案」というテーマで取り組みを進めた。後期には、「在京国際機関や関連機関における、インターンや共同作業を目指して、様々な準備を行う」というテーマで取り組みを進めた。ただし、相手先へ訪問してのヒアリング調査等は実施せず、直接的な人との接触は、避けるように心がけた。また、

今年度中に、新しい取り組みとして、国際機関や民間企業職員を招いた、オンライン講演会を実施する予定である。

プロジェクト演習では、在京国際機関でのインターンの実施は困難な状況となった。そこで、インターンシップ実現に向けた準備活動と並行して、「国際機関へ向けた青学生らしい情報発信手法の提案」というテーマで、国際的な活動をしている組織の情報発信のあり方について、調査研究を進めてきた。また、J-BINGO プロジェクトに関係する学生が集まるゼミも、通常の対面形式での実施が出来なかった。そこで、後期からはオンラインゼミという形で実施してきた。

本稿を執筆している2020年12月時点では、未だ、新型コロナウイルスの感染者が確認されており、収束の見通しが立っていない状況である。そのため、2021年度は、対面型で実施できること、オンライン形式での実施が望ましいことを見極めながら進めていく必要がある。特に、Google のツール群等も活用することで、今年度の取り組みをより発展させた活動を実施したい。

謝辞

本プロジェクトの実施全般にご協力頂きました、国際連合工業開発機関 東京投資・技術移転促進事務所（UNIDO 東京事務所）の村上秀樹次長に、感謝の意を表します。

また、人権教育公開講義にて、ご講義頂いた、EY 新日本有限責任監査法人の名越正貴氏に、感謝の意を表します。なお、人権教育公開講義については、青山学院大学人権教育委員会の支援を受け、実施いたしました。

本研究は社会情報学研究センターによる研究プロジェクト「J-BINGO in AGU: Japan Bridge for International Governmental Organization in AGU」の成果の一部です。

参考文献

- [1] 青山学院大学 社会情報学部 J-BINGO プロジェクト「青山学院大学 社会情報学部 J-BINGO プロジェクト」, 2019 年, <http://www.cc.aoyama.ac.jp/~j-bingo/jbingo.html>, Accessed.2020.12.05.
- [2] 飯島泰裕, 米山明日香, 菊川人吾, 上野亮「The Japan Bridge for International Governmental Organizations: J-BINGO at AGU」『青山社会情報研究』第 8 巻, 2016 年, 75-78 ページ.
- [3] 飯島泰裕, 米山明日香, 菊川人吾, 上野亮「The Japan Bridge for International Governmental Organizations: J-BINGO in AGU」『青山社会情報研究』第 9 巻, 2017 年, 63-67 ページ.
- [4] 飯島泰裕, 米山明日香, 菊川人吾, 上野亮「The Japan Bridge for International Governmental Organizations: J-BINGO in AGU」『青山社会情報研究』第 10 巻, 2018 年, 78-83 ページ.
- [5] 飯島泰裕, 米山明日香, 菊川人吾, 上野亮「The Japan Bridge for International Governmental Organizations: J-BINGO in AGU」『青山社会情報研究』第 11 巻, 2019 年, 58-65 ページ.
- [6] 一般社団法人イマココラボ「カードゲーム「2030SDGs」の紹介」, 2019 年, <https://imacocollabo.or.jp/games/2030sdgs/>, Accessed.2020.12.12.
- [7] 株式会社タカラッシュ「南スーダン救出作戦～答えは変えられる～」, 2019 年, <http://www.takarush.jp/promo/msf/>, Accessed.2020.12.12.
- [8] 国連ボランティア計画 (UNV)「国連ユースボランティア事業」, 2015 年, <https://unv.or.jp/unvjp/unv-youth/>, Accessed.2020.12.12.
- [9] 上智大学「グローバル教育・留学 国連ユースボランティア」, 2019 年, https://www.sophia.ac.jp/jpn/global/international/jissengata/active-learning_un-volunteer.html, Accessed.2020.12.12.
- [10] 東京外国語大学「説明会&公募 ニューヨーク国連スタディツアー」, 2019 年, <http://www.tufs.ac.jp/documents/student/NEWS/education/19042501.pdf>, Accessed.2020.12.12.